

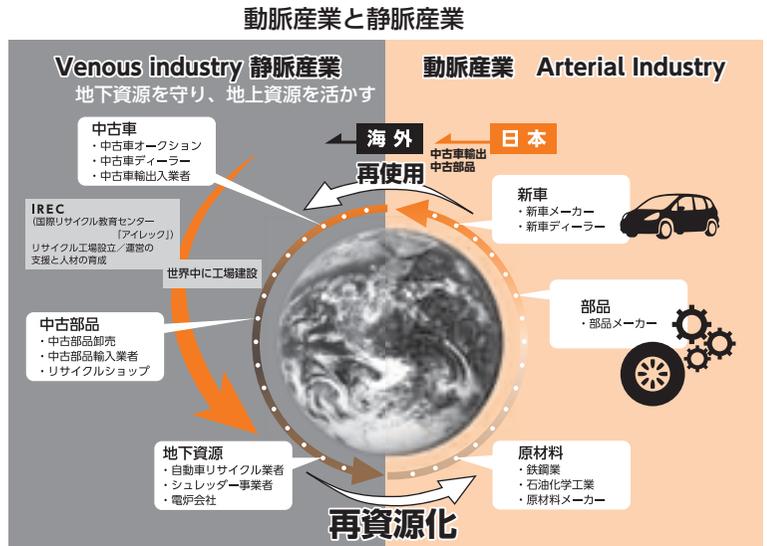
# 「静脈産業」の確立を目指す

会宝産業株式会社 代表取締役会長  
近藤典彦

使用済み自動車のエンジン・部品等を世界 85 カ国に輸出。徹底的かつ革新的な IT 化により業界のリーディングカンパニーとなった会宝産業は、自動車リサイクル事業を通じた循環型社会を目指す。

## 自動車は再資源化の優等生

モノを製造し供給する産業を「動脈産業」、一方モノを回収して再資源化し、循環させる産業を「静脈産業」という。当社は自動車リサイクルで「静脈産業」の確立を目指す企業である。使用済みの自動車を仕入れて解体し、再利用できる部品は海外へ輸出、部品として使えないものは鉄や銅などに分類して素材として販売している。自動車はリサイクル率 95%、再資源化の優等生である。



## 日本人が責任をもって後始末

地球上には約12億5000万台の車が存在し、そのうち 35%にあたる 4億3700万台が日本車である。さらに、日本国内の保有台数は 7500万台、残り 3億 6200万台は海外に存在していることになる。そしてその大半は発展途上国に輸出されている。

日本には車検やリサイクル制度があるが、途上国にはない。そのため、街を走る車は未整備で頻繁に故障する。ところが、修理をするにも粗悪な部品しかなく、修理をする人々も知識や技術が不足しているため、修理してもすぐにまた不具合が発生する。そして、やがて車は役目を終え、適切に処理されることなく道端に不法に捨てられる。途上国では、至るところで使用済み自動車が野ざらしで山積みになっているのである。これらの車

が環境を汚染するのは言うまでもない。

こうした途上国の現状は、過去の日本にもあったことだ。1975年、香川県の豊島に約90万トンもの産業廃棄物が不法に投棄され、以後約40年の歳月と700億円以上の税金を投じて処理を行ってきた。このままでは、その歴史が途上国で繰り返されることになる。まして、捨てられているのは日本が製造した日本車である。日本車の後始末を途上国に押し付けるのではなく、日本人が責任をもって最後まで行うべきだと考える。

## 安全性と透明性の高い商品供給

自動車リサイクルを通して解決すべき途上国の社会課題として、中古部品の安全性・信頼性が担保されていない、自動車を適性に処理する技術と知識がない、自動車リサイクル制度がないことに